

起業家におけるスポーツ等の経験の意義

— 地方創生の加速を目指して —



徳島県立城ノ内中等教育学校 6年
山本 大貴

1. はじめに

私は、サッカーや駅伝等のスポーツ経験を通じ、体力やスポーツスキルに加え、コミュニケーション力などが身に付いた。このようなスポーツ経験で得られたものが、海外留学など新しいことに挑戦するときの自信となっている。また、私は小学6年生時に祖父母の農園での手伝い経験を元にした起業アイデアで「徳島創生アワード」を受賞して以来、起業に強い関心をいじめてきた。現在、徳島で起業家育成を行う「徳島イノベーションベース (TIB)」に参加し、起業家からご指導いただく中で「スポーツ経験は子供の成長に大事」であると感じた。そこで、「起業家におけるスポーツ等の経験の意義」に興味を持ち、その探究は下記の通り社会的意義を有すると考え、探究活動のテーマとして設定した。

【「起業家におけるスポーツ等の経験の意義」を探究する社会的意義】

日本では、人口減少や東京一極集中による地方衰退に対し、2014年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、2025年12月に「地方創生に関する総合戦略」(以下、総合戦略)が閣議決定されて、地方創生は喫緊の課題となっている。総合戦略の「まち・ひと・しごと創生に関する目標」は「地方創生2.0基本構想」第3章「1. 目指す姿」で10年後に目指す姿として、「新たな起業に挑戦できる環境が整っている」と「起業」が重視されている。また、総合戦略の第3章第5節1.A.a(1)⑧に「スポーツによる地域・経済の活性化」が明記されており、「スポーツ」も重視されている。このことから起業とスポーツは個性豊かで魅力ある人財・事業・地域社会の創造・活性化による地方創生において、重要な役割を担うものと考えた(図1参照)。

更に、「スポーツ基本法」で「スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの」とあり、スポーツは健全な人間性の形成に大きく寄与するものといえる。そのため、地方創生で重視されている起業とスポーツ経験との関係性を示すことができれば、起業とスポーツにより地方創生を加速できる可能性があると考えた。しかしながら、図1赤色矢印で示す「スポーツ経験が起業家に及ぼす影響」に係る研究論文は、大学生を対象とした起業家マインド(野中, 2010)や起業意欲(大橋, 2023)に関する研究のみであり、起業家を対象とした研究は本邦で無いため、社会的意義のある探究テーマだと考えた。

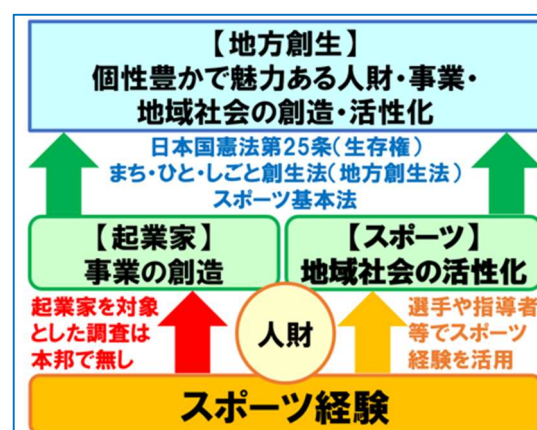


図1 スポーツ経験が地方創生に及ぼす影響のイメージ図 (筆者作成)

2. 目的

起業家を対象に、スポーツ等の経験を起業の成功に如何に活かしているのか調査して、起業家におけるスポーツ等の経験の意義を明らかにすることを目的とした。スポーツ経験等が起業家の成功に活かされていることを示すことができれば、「起業家」と「スポーツ」の両面から地方創生を加速できると考えた。

3. 方法

本研究は2段階で行うこととした。まず「調査1」で起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる要素の仮説を立て、続いて「調査2」でその要素が起業家に及ぼす影響の有無や度合いについて分析することとした。

3. 1. 調査1 (インタビュー調査)

スポーツ経験を有する起業家11名に対し、スポーツ経験と起業に関するインタビュー調査を実施した。協力頂いた起業家のスポーツ経験は多岐に渡り(剣道、野球、サッカー、フットサル、ラグビー、アメリカンフットボール、バスケットボール、卓球、テニス、ソフトテニス、水泳、登山、ランニング等)、複数のスポーツ経験を有する起業家も多かった。また、本インタビュー調査により、スポーツから成功・挫折・後悔などを経験されていること、体力や精神力や俯瞰する能力などが鍛えられていること、人間関係力を養われていること、リーダーシップや責任感を身に付けられていること、探究心があること、様々な創意工夫をされていること等、スポーツ経験が起業家に影響を及ぼした要素があることを確認できた。

続いて、先行研究に関する調査も行った。前述の大学生を対象とした起業家マインド（野中，2010）に関する論文では、起業家に必要な能力と考えられる5項目（積極性、競争意欲、自己実現意欲、忍耐力、自信）の内、自信以外の4項目（積極性、競争意欲、自己実現意欲、忍耐力）や協調性でスポーツクラブによる影響が示唆されている。また、大学生を対象とした起業意欲（大橋，2023）に関する論文において、スポーツ経験の方がスポーツ未経験者に比べて、リーダーシップ能力があることが示唆され、集団競技経験者に限れば、スポーツ活動とリーダーシップ間に強い相関関係があることが確認されている。

そのため、インタビュー調査に加えてこれらの論文を参考とし、私自身の経験もふまえ、「起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる6要素（太字・下線は調査2の調査項目反映）」として、①きっかけ（探究心）、②自信（成功体験）、③意欲（競争心、責任感、創意工夫、挫折・後悔から生まれる反骨心）、④人間関係力（コミュニケーション力、リーダーシップ）、⑤スキル（体力、精神力、俯瞰する能力、そのスポーツに必要な技術）、⑥環境（指導者、施設・設備、競技人口、他）を設定した。

3. 2. 調査2（アンケート調査）

調査1の「起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる要素」をもとに調査項目を設定し、起業家（スポーツ経験有無は不問）を対象として、Google Formを用いてアンケート調査を実施した。アンケート調査は、徳島県立城ノ内中等教育学校の保護者、徳島で起業家育成を行う「一般社団法人徳島イノベーションベース（TIB）」、TIBなど全国のイノベーションベースの横断連携をはかる「一般社団法人xIB JAPAN（xIB）」等、61名から回答を得た。

「起業の成功度」と「スポーツの成功度」を全体で評価するため、各項目の「5段階評価」と「当該評価値の回答数」から加重平均値を算出した。その結果、「起業の成功度」と「スポーツの成功度」の加重平均値は図2に示す通り中央値（3.0）より低値となった。アンケート調査回答を精査したところ、起業やスポーツで高い成果をあげられている方でも成功度を低く回答されているケースもあり、全体的に成功度について厳しく自己評価されている可能性があると考えた。また、「スポーツの成功度」と「起業の成功度」の相関について高くないものの確認することができた。

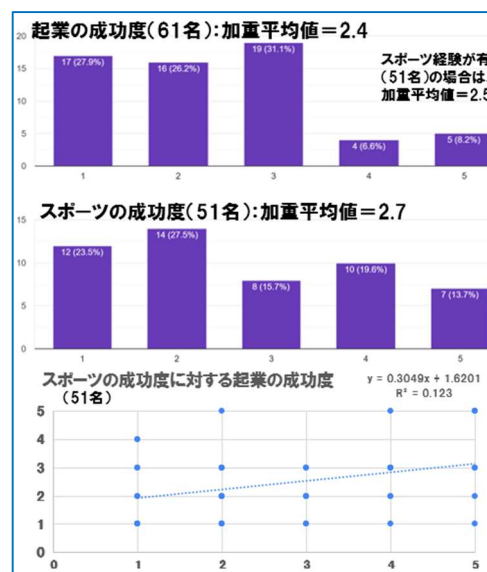


図2 「起業の成功度」及び「スポーツの成功度」

次に、「起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる要素」について、スポーツ経験を有する起業家（51名）の回答の分析結果を図3に示す。その際、2025年中小企業白書で「成長の壁」とされていた年商10億円以上の起業家を抽出した分析も行った。起業家では実線赤枠で示した体力、精神力、責任感が高値であり、年商10億円以上の起業家では点線赤枠の競争心や創意工夫も高い結果となった。

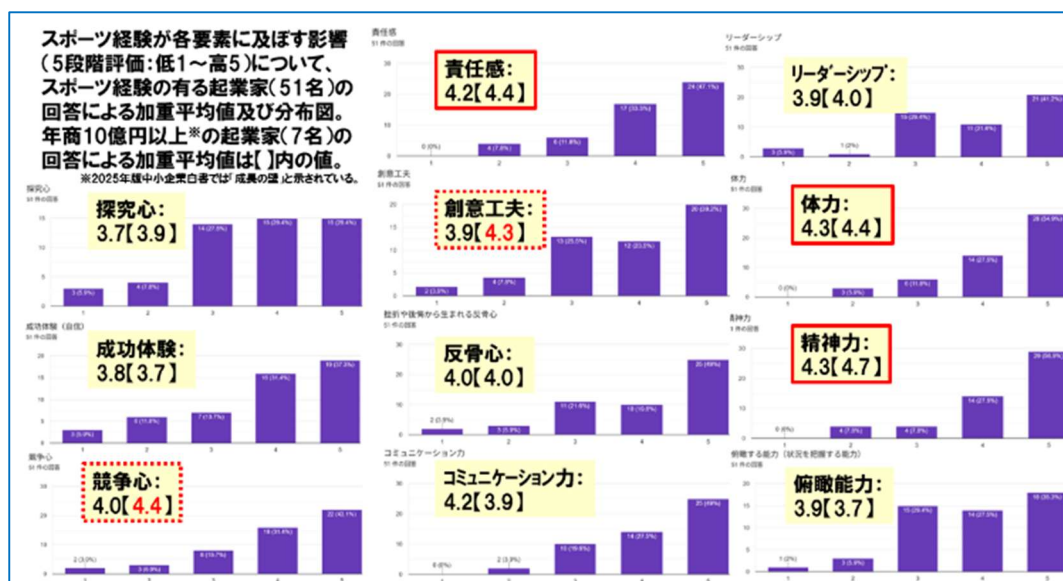


図3 「起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる要素」の分析

更に、各要素と「起業の成功度」との相関を図4の通り分析した結果、全要素の和が最も高く、続いて俯瞰能力、創意工夫、コミュニケーション力、探究心、競争心の順番で高かった。体力、精神力、責任感などに加え、俯瞰能力、創意工夫等が「起業の成功」に影響すると示唆された。なお、「起業の成功度」は目標に対する成功度であるため、目標設定とその目標に向けた達成力による結果と考えられる。俯瞰能力で目標に対する方向性を見定め、創意工夫と探究心で道筋をつけ、コミュニケーション力と競争心で前に進め、全要素の総合力で目標達成に至ることも考えられる。このように、今回の仮説「起業家に影響を及ぼすスポーツ経験から得られる要素」の重要性を示唆する結果となった。

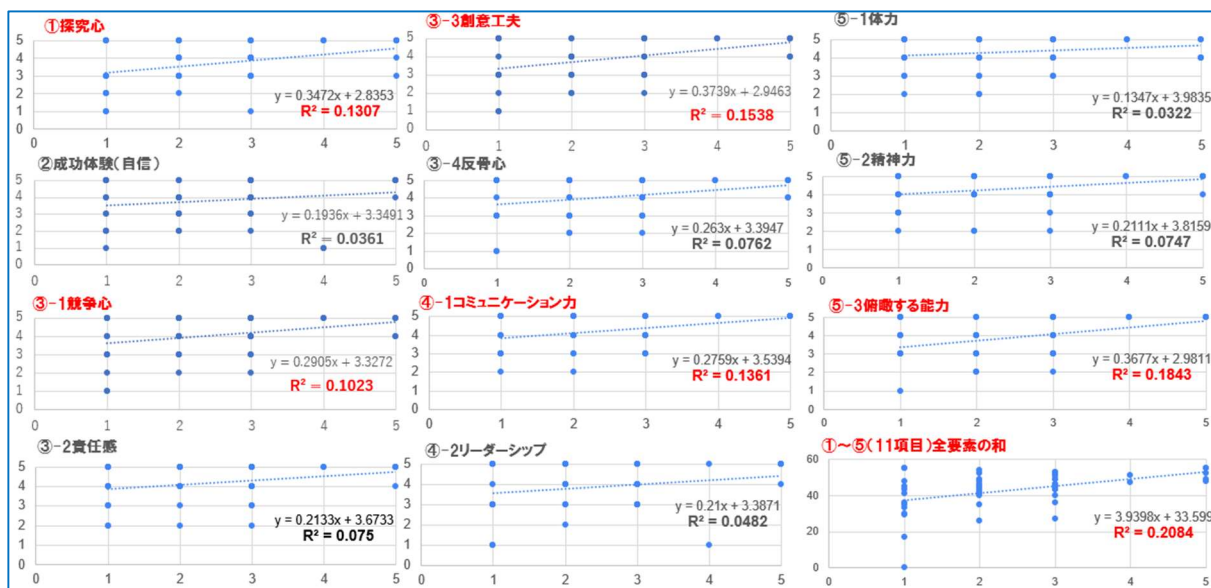


図4 起業の成功度とスポーツ経験で得られる各要素との関係

なお、スポーツ以外の経験に関する回答から加重平均値を算出した結果、図5に示す通りイベント活動、起業コンテスト、寮生活・下宿生活、留学、生徒会については4.0より高値となった。また、受験勉強、学級委員、文科系クラブ、バンド活動も中央値(3.0)より高値となった。受験勉強に関しては、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」の2026年版「THE 世界大学ランキング」で日本からTOP100に入っている2校(東京大学:26位、京都大学:61位)の出身者の回答を分析したところ、東京大学は5.0(3人回答)、京都大学は4.3(3人回答)と高い値であり、受験勉強の経験も起業に活かされていることが示唆された。

加えて、起業に活かされた経験としては、幼少期の読書・ゲームや、高校時代の他校との関わり、大学時代の国際NPO運営経験や遊び、アルバイト、就職活動、社会人経験、起業塾などの回答も得られた。

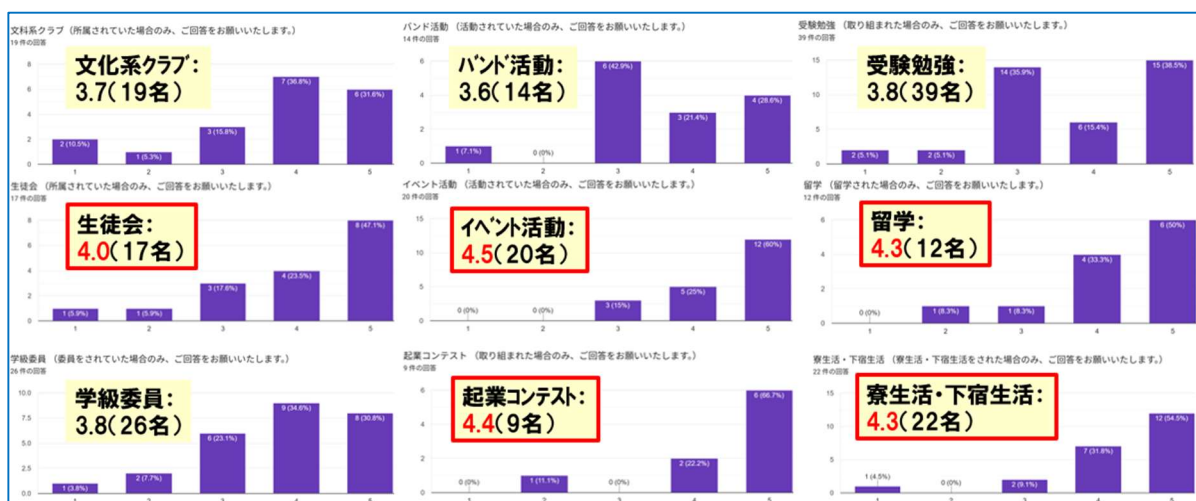


図5 スポーツ以外の経験が起業家に及ぼす影響

アンケートの自由回答では「自分の人生を豊かにするために、自分で自分の人生をコントロールしたくて起業する方も多いのではないかと」の意見もあった。この意見から、起業で上場等を目指す方向と、自分や家族の人生を豊かにすることを目指す方向があり、図6で示す日本サッカー協会（JFA）ダブルピラミッド（「勝利を追求」と「Well-Being」のピラミッド）モデルに類似するものと考えた。起業のダブルピラミッドが存在するならば、学生時代におけるスポーツ等の経験が「起業ダブルピラミッド」のベースを広げ、起業家が地方創生に挑むことにつながってゆく可能性があると考えられる。

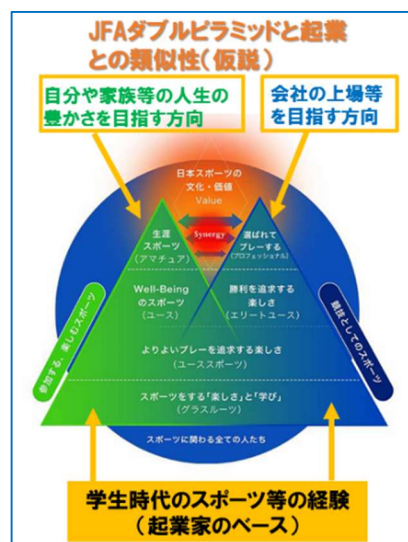


図6 起業ダブルピラミッド (仮説)

3. 3. 考察

調査1及び調査2の結果から、以下の3点が示唆された。

- ① スポーツ経験のある起業家は、スポーツ経験を起業の成功に活かしていた。
スポーツ経験は起業家に体力、精神力、責任感等で活かされていた。また、売上規模の大きい起業家では、競争心、創意工夫も高いことが示唆された。その理由として、売上規模を大きくするために他との競争に勝つ必要があり、そのために創意工夫もより必要としていると推察された。
- ② スポーツ以外の経験も、起業の成功に活かされていた。
スポーツ以外の経験では、イベント活動、起業コンテスト、寮生活・下宿生活、留学が特に起業に活かされていることが示唆された。それ以外にも、様々な経験が起業に活かされていた。
- ③ 起業において、上場等を目指す方向と、自分自身や家族等の人生を豊かにすることを目指す方向との「起業ダブルピラミッド」が存在すると考えられた。このことによって、多様な起業家が輩出され、多くの課題をかかえる地方創生に寄与することが期待される。なお、起業家として目指す方向により、それぞれの起業に活かされる経験や強みが異なることも考えられる。

4. おわりに

今回の探究成果をスポーツ及び地方創生に活かす方策として下記2点を示す。

- ① 起業家におけるスポーツ経験の意義を学生及び保護者に啓発
起業家におけるスポーツ経験の意義を学生及び保護者に啓発することで、スポーツに取り組み、継続する学生を増加させる。私自身が直接学生及び保護者に発信する以外に、地方でスポーツ活動を行う学校や団体等に本探究成果を伝え、当該学校や団体等から学生や保護者に啓発する方法も考えられる。
- ② 学生のスポーツ指導者の増加に向けた活動
私は日本サッカー協会の指導者ライセンスを取得することにより、下級生に対する指導力を向上させることができたうえ、私自身のサッカースキルも向上させることができた。学生の段階からスポーツの指導資格を取得することは、指導者の増加に加えて、当該スポーツに取り組む選手のスキル向上につながるものと考えられる。そのため、学生のスポーツ選手に指導資格の取得を推奨する活動を行う。

5. 謝辞

本探究活動にご支援・ご協力を頂いた徳島県立城ノ内中等教育学校、一般社団法人徳島イノベーションベース（TIB）及び一般社団法人xIB JAPAN（xIB）ご関係者、そして起業家諸先輩に深く感謝申し上げます。

参考文献・資料

まち・ひと・しごと創生法 (<https://laws.e-gov.go.jp/law/426A00000000136>)
地方創生に関する総合戦略 (https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/chiikimirai/pdf/20251223_honbun.pdf)
地方創生2.0基本構想 (https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_chihousousei/pdf/20250613_honbun.pdf)
スポーツ基本法 (<https://laws.e-gov.go.jp/law/423AC1000000078>)
野中孝介(2010)「スポーツクラブ経験が起業家マインド醸成に及ぼす影響」
大橋優貴(2023)「スポーツ活動への参加と起業意欲の関連性：リーダーシップを媒介として」
一般社団法人徳島イノベーションベース（TIB）(<https://tibase.jp/>)
一般社団法人xIB JAPAN (<https://xibase.jp/>)
2025年版中小企業白書 (<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html>)
日本サッカー協会（JFA）「ダブルピラミッド(Japan's Wayより)」(<https://www.jfa.jp/japansway/>)
地域移行に対するJFAのビジョン『ありたき姿』(https://www.jfa.jp/grass_roots/school_club_transition/vision.html)
スポーツ庁「部活動改革ポータルサイト～子供たちのスポーツ活動の充実に向けた未来への挑戦～」(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413_00003.htm)
「Times Higher Education (THE)」2026年版「THE世界大学ランキング」(World University Rankings 2026 | Times Higher Education (THE))